

平成21年3月期決算説明会Q&A

【計測器事業—LTEについて】

Q1: 次世代携帯通信方式LTEの今期の見通しを教えてください。

A: LTE専用計測器は2008年度第4四半期で約20億円受注した。このうちの一部は今期の売上となり、2009年度通期では、40億円程度の売上を実現したい。2010年の商用サービス開始に向け、今後さまざまな収益機会がでてくる。LTE専用計測器だけではなく製造市場向け汎用計測器、無線インフラ用建設・保守用計測器など競合に一步先んじてトータルソリューションを展開し、トップサプライヤを目指していく。

Q2: 投資の採算性で見ると刈り取り時期にきているのか。

A: 最先端の分野であり、今後も投資は必要になるが、当社の研究開発用計測器は利益率が高く、利益の積み上げが期待できる。

【計測器事業—中国3Gについて】

Q3: 中国の第3世代携帯電話（3G）市場についての見通しを知りたい。

A: ネットワーク建設・保守市場を中心に新たに50億円程度の市場規模が見込まれている。当社は、20年前から中国でビジネスをしている。現在、10ヵ所以上のビジネス拠点を有し、上海にはサービスセンターを構えている。通信関係の政府機関である中国電信研究院や現地の通信事業者や通信機器メーカーとの強いつながりも築いており、20億円以上は確保したいと考えている。
中国独自のTD-SCDMA方式の端末の需要の立ち上がりはまだ見通せていないが、当社はTD-SCDMA方式向けの開発、製造向け計測器については先行しており、新たな収益機会として動向を注視している。

【計測器事業—サービスアシュアランスについて】

Q4: サービスアシュアランス（SA）事業の状況はどうか。

A: これまでは欧州・中東などの通信事業者が高く評価され、成果を上げてきた。しかし、昨秋の金融危機以来、大型案件の延期や凍結が続いている。他地域への参入も計画通りには進捗しておらず、業績は継続して営業赤字となっている。このため、大規模なリストラを行い、今期はのれん代を除いて営業利益でブレイクイーブンを目指す。

【2009年度の計画について】

Q5: 黒字転換のリスク要因は何か。

A: 現在の受注状況は、計画通りに進捗しているが、計測器事業の下ぶれが大ききリスクである。生産財を扱う当社にとっては、消費財の需要・生産の立ち上がりから遅効性があり、今上期は厳しい状況が続くと考えている。しかし、経営革新2008によるコストコントロールと緊急経営施策による固定費削減効果により、企業体質は確実に強化できている。通期の売上が725億円に落ちたととしても、営業利益でブレイクイーブンは確保できると考えている。

Q6: 計測器事業のセグメント別の見通しを知りたい。

A: 当社の計測器事業は、「NGNおよびインフラ」、「携帯端末」、「汎用」から構成されており、売上比率は各々4割、3割、3割となっている。2008年度は2007年度に比較してNGNおよびインフラが約25%ダウン、携帯端末が約20%ダウン、汎用が約15%ダウンとなった。今期も厳しい状況が続く、2008年度に比較して、各々15%～20%、5%～10%、10%～15%の下落となる見込みである。

【その他】

Q7: 今期のフリーキャッシュフローと負債の見込みについて知りたい。

A: 前期末で55億円のフリーキャッシュフローを確保した。今期も同額程度を確保したい。9月に70億円の有利子負債の返済があるが、ロールオーバーしたいと考えている。

Q8: 資金繰りの状況を知りたい。

A: 運転資金については特に問題ない。

Q9: 2008年度の研究開発費は大きく減額しているが、今年度以降の考え方を知りたい。

A: 投資対リターンは長いスパンでみていくべきものであるが、開発の採算性を重要な経営指標にしており、単年度での開発投資額を売上総利益に対する比率で管理している。この枠内で開発案件の優先順位をつけていき、投資ポートフォリオマネジメントを徹底していく。